

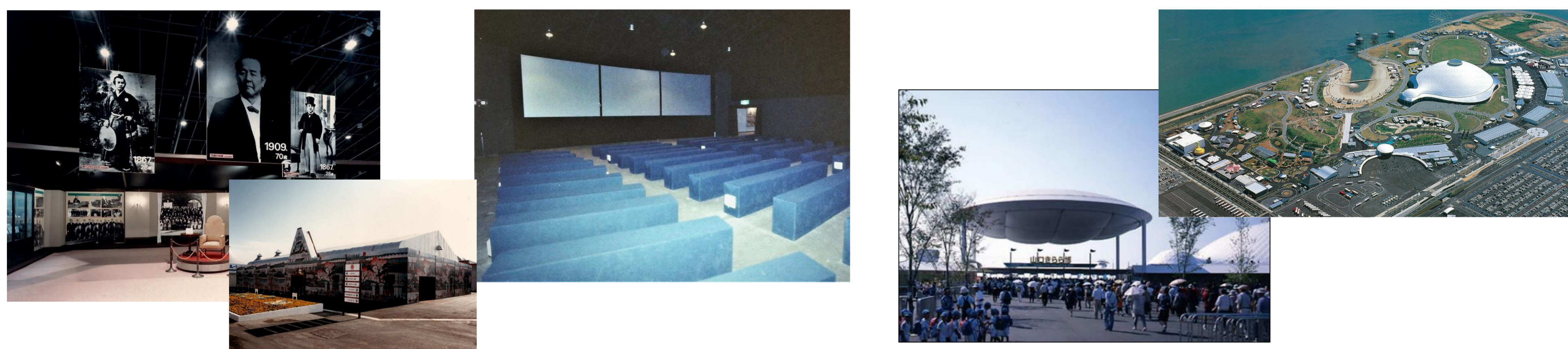
# 展示映像の記録・保存・デジタル化推進事業

一般社団法人展示映像総合アーカイブセンター

## 概要

「展示映像」はイベント等での上映期間を終えると、作品の多くは上映空間や機材が撤去されることもあり、総合的に保存されることは稀である。廃棄されたり散逸する作品も多く、映画のような組織的なアーカイブとは無縁の映像である。この展示映像を後世に残すことをめざして本事業を進めた。一社)展示映像総合アーカイブセンターにて保有している展示映像の中から、ビデオテープに収録されているため、メディアの劣化が危惧される次の2作品のデジタル化、データの一部公開を作業目標とした。

- 『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』1988年さいたま博覧会／渋沢栄一館館 (3面マルチ映像, 16分) すでにフィルムは原版とプリント共に廃棄されているが、唯一VHSビデオテープにて保存されている。
- 『時の回廊への誘い』2001年山口きらら博覧会／山口市館 (3面マルチ映像, 8分) 当時上映に使用されたレーザーディスクからDVテープにダビングされたものが保存されている。



(1) 88さいたま博覧会・渋沢栄一館 左から展示ホール、外観、映像ホール

(2) 山口きらら博覧会の会場 (株式会社SDのHPより転載)

## 体制

事業推進にあたり旧メディアからのデジタルデータ変換に最新の技術的サポートを踏まえて(株)IMAGICAエンターテインメントメディアサービスに委託した。特にVHSビデオテープはすでに35年前のもので劣化も見られたため慎重を期した。またメディア保管や今後の試写の環境を確保する必要があることから、九州大学芸術工学部と協働で実施した。

## 成果

### 『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』

オリジナルは16mmフィルム×3巻で3面マルチ映像として上映されていた。フィルムはすべて処分された。唯一36年前にフィルムからテレシネで収録されたVHSビデオテープが1組だけ残されている。デジタル化前に検査した結果は経年劣化による退色、ノイズ等が確認された。デジタルデータに変換した後、各画面相互の色合わせ、輝度や色調の調整、ノイズの除去などをおこなった。最終的には4Kと2Kにてデータを保存することができた。元がVHSであることを考えると、かなり良好な仕上がりであり、オリジナル上映に匹敵する大画面での上映も可能である。

### 『時の回廊への誘い』

2001年の博覧会開催時には3台のレーザーディスクを同期再生して上映された。当センターにはそれをダビングしたDVテープがある。これも旧メディアであり同期再生は困難である。テープは検査の結果、比較的保存状態は良好であった。ここからデジタルデータとして4Kと2Kに変換したものを取得した。本作品もオリジナルとほぼ同じ大画面での再現が可能となった。

## 今後の課題

両作品ともに希少性の高い映像である。特に『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』は新一万円札の発行を控えて関心が高く再上映が望まれている。著作権等の法的な課題を確認しながら公開上映に向けて作業中である。

<写真資料> 88さいたま博覧会公式記録、渋沢栄一館プレスキット、株式会社SDホームページから転載、一社)展示映像総合アーカイブセンター所蔵写真



16mmフィルムからテレシネで変換されたVHSビデオテープ

各ロールごとにデジタル化(4K, 2K)

作品の全体を確認するための3面合成版

DVテープには3ロール分が連続して収録してある

各ロールに分割後デジタル化(4K, 2K)

作品の全体を確認するための3面合成版